

午後 I 試験

問 1

問 1 では、SaaS を利用した営業支援システムを導入するプロジェクトを題材に、システム化方針の策定から SaaS の選定、要件定義において、どのようなことを検討すべきかについて出題した。全体として正答率は高く、おおむね理解されていた。

設問 2(3)は、正答率が低かった。サービス提供者のデータセンタにデータが保管される状況において、サービス利用終了後も当該データを継続して使用できるような対応が不可欠である点を意識してほしい。

設問 3(3)は、正答率が低かった。“サービスレベルの合意に用いる情報だから”，“日常業務で利用するシステムだから”，といった、サービスレベルの合意の一般論にとどまった解答も一定数見られた。SaaS の特徴及びシステム化方針を踏まえたサービスレベルの合意のポイントを理解してほしい。

問 2

問 2 では、混入工程に着目した定量的品質管理について出題した。

定量的品質管理において、品質状況を正しく把握するためには、どの工程で誤りを混入させたのかという観点での分析が重要である。改めて、定量的品質管理の基本を、しっかり理解しておいてほしい。

設問 2(1)では、予算、人員及びテスト環境に一定の余裕があったとしても、欠陥の摘出・修正ができなくなるリスクに関し、テスト工程が、前の工程と比較して制約が厳しくなっていく要素について問うた。本問の PM が設計・製造工程において“設計限界品質”への到達度を高めようとした背景を読み取って、テスト工程における時間の制約を意識して解答してほしい。時間は、他の資源と比較して調達に難しい資源である。PM はそのことを強く意識してほしい。

なお、設問 3(1)について、計算や四捨五入のミスが多かったのは、残念であった。PM は、ステークホルダに対して、正確な情報を提供していく責務がある。数値には慎重に対応してほしい。

問 3

問 3 では、CRM システム刷新プロジェクトを題材に、ステークホルダの把握、コミュニケーションマネジメント計画の策定、及び子会社の業務範囲拡大に向けたプロジェクト内部のマネジメント計画の改善について出題した。全体として正答率は高く、おおむね理解されていた。

設問 3(2)は正答率が低かった。X 社における課題である“チームを組んでプロジェクトを遂行した経験が少ない”という点を踏まえて、解答してほしい。

設問 3(3)も正答率が低かった。X 社が設計工程の進め方のイメージができていないことを考慮せずに、直接 P 社と X 社とで設計工程の作業を行う旨の誤った解答が散見された。